

ROTARY CLUB OF

**KANAZAWA-NORTH**



**金沢北ロータリークラブ**

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：金沢市東山1-38-30・松魚亭

TEL <0762> 52-2271

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 22-2525

会長：塩村喜代次 幹事：小間井宏尚

情報委員長：中村三次

1984・9月6日 第273号

## 高度情報システムと金沢テレピア



電々公社北陸電気通信局

計画部長 小野 伸治氏

最近流行っている言葉に、ニューメディアというのがある。色々な内容をもつ言葉であるが、一つの定義に固定しがたい面があり、この中で将来一番影響の大きいといわれているものに電々公社が提案しているINSがある。

これからの高度情報化社会の社会的基盤として、電気通信は非常に重要になってくる。従来のシステムを更に高度化しなければならなくなり、INSは将来の電気通信システムとなるものといえる。つまり現在のシステムがデジタル化されるということである。

デジタル時計の出現で、正確さ、高機能化、経済性の三つの飛躍的進歩がなされたが、電気通信システムのデジタル化も同様の意味がある。第一に高度情報化社会では情報の正確さが何より要求される。第二に従来は基本的に電話が通信設備の中心であったが、デジタル化されれば多機能化されコンピューター、ファクシミリなど同じ設備で色々なサービスが出来るようになる。つまり第三の経済性の問題ともなってくる。経済性は電気通信の中で一番大切な点で、真空管からトランジスターIC、LSI最近ではVLSIへと進歩したが、これら一個の値段はほとんど変わらずに、機能が60万倍となった。つまり60万分の1の安いコストで同じ通信機能を果すことが出来るようになったのである。

デジタル化の中で特に経済性が大きな目標である。情報の重要性が増大する時に安く得られるか、地域格差をなくするかが大変問題となる。遠近格差の解消に夢を托しているのが光ファイバーケーブルと衛星通信である。この二つの技術が進めば近い将来現実のものとして遠近格差を解消してくれるのも夢ではない。現今ではキャブテンシステムがこの秋よりサービス開始となり全国均一3分30円の料金となり、又ファクシミリ通信網では遠方との通信に経済性が大きい。

金沢では最近テレピアという言葉が聞かれる。昨年夏郵政省がテレピア構想、通産省がニューメディア構想を打出した。北陸三県でも各都市が立候補しているが、この二つは敢えて云えば同じニューメディア、高度情報化を目標にしているといえる。ただ郵政省は電気通信、通産省は情報処理の面からアプローチするものと云える。

問題はこれをどう使いこなして効果を出して行くかで、産業でそれを駆使し、それぞれの企業の興隆に結びつけて頂くかが重要なことになる。私の個人的意見であるが、ソフトウェアバレーとしての金沢ということを提唱しているのである。

—金沢北RC例会講話より— (文責 中村三次)

## 私 の 名 刺

村 田 完 二



このたび鈴木透様、俵外代吉様の御推薦をいただき、先進的な金沢北ロータリークラブに入会させていただくことになりました。両先輩ならびに会員の諸先輩に対しまして心から厚く御礼を申し上げます。

私は昭和2年7月17日に金沢市で生れ、生れてすぐ父の職場の都合で当時浅川村であった若松療養所隣の官舎に移り約15年間、この地で過しました。三尖塔校舎にあこがれた私は旧二中（現在の紫錦台中学）に学び、若松から学校までの道すがらよく道くさをくったものです。当時に比較して最近道のりのいやに近く感ずるのも交通網の発達のせいでしょうか。

私の人生のうち、いつまでも忘れることのできないものの一つに学徒動員の思い出があります。昭和19年8月、中学卒業を目前に控えた当時5年生の私は石川学徒隊の一員として愛知県刈谷市の豊田自動織機工場に派遣されました。造っていたものといえば戦闘機の部品、20ミリ機関砲、ロケット弾など軍用のものばかりでした。戦火を身近に感ずるようになった20年3月刈谷高等女学校の構堂で合同卒業式をあげたのも印象的な出来事でした。

その後、B-29の爆撃、濃尾地震とかってない経験をふんだ私は電電公社の前身である通信局工務部に昭和23年に入局し、昭和24年電気通信省に、昭和27年に日本電信電話公社となったものの通算35年の間、公社に在籍いたしました。その電電公社も昨年の58年3月に退職し現在の日本通信建設(株)北陸支社に入社しました。

私の会社は石川県ではまだまだ無名ですが、千葉・浦安にある「東京ディズニーランド」の建設情報誌「ピア」のソフトなどを担当したほか、光ケーブル、デジタル交換機などの電気通信工事の建設、OA機器、各種電話機の販売など巾広い分野で活躍しております。

まだまだ未熟な私ですが、ニューメディア時代にふさわしい仕事を着実に進め、今後さらに立派な金沢北ロータリークラブの発展を目指して力一杯頑張っていきたいと思っております。

今後とも皆様方の暖かいご指導、ご鞭撻下さいますよう重ねてお願い申し上げます。

### 今週の花

吉 山 宥 海  
(8月16日)

じゅ 数	ず 珠	だま 玉
み	そ	は
夏	し 紫	おん 苑



## 僕の留学生活 (1)

交換学生 浅田 松太

僕が一年間訪れていたカナダのハミルトンという市は、トロント市から車で約一時間半、アメリカのバッファロー市から約2時間の所にあります。人口は30万人位ですが、とにかく広いので金沢よりも数倍大きな都市に見えました。僕がこのハミルトン市に着いたのは丁度、一年前のことです。

その日の夜、親切そうな最初のホストファミリーに連れられて彼らの家に入りました。その時、ホストマザーが「靴はここに脱ぎなさいね」と、玄関口の横にある小さなマットを指したのです。アメリカ人やカナダ人って靴を履いたまま生活しているんじゃないかなと、僕はおかしく思いながら靴を脱ぎました。でもそれから数10軒の人の家を訪ねましたが、僕が靴を履いたままあがった家は、ほんの2~3軒しかありません。カナダの家の床は靴を履いたまま生活できるようになっていますし、家族の人も、お客さんが来ると靴のまま家にあがってもらうようにしています。でもそのお客さんは、家に入る前に「靴は脱ぎましょうか?」と、一度訪ねてくるのが普通です。ただでさえ面倒なそうじがなおさら面倒になるからですが、このようにカナダ人の生活様式は段々合理化されてきているようです。しかし、そうじも洗濯も週に一度しかしないことには、まいりました。

この一年間で僕は5つのホストファミリーに滞在しました。この5つのファミリーは、それぞれとても楽しくて、大変親切であるという点をのぞけば、それぞれ全く違った感じの家族でした。この理由は、人種の違いからきていると思います。例えば、ドイツ人の家庭に滞在していた時、食事には朝・昼・晩と毎回、肉がだされました。また、彼らはすごく陽気で行動的なので、暇が大嫌いなんだそうです。僕が少しでも暇にしていると、どこかで遊んで来いと、あっちの方から言ってきました。さて、その5つの家庭の中でも僕が特に変わっているなど、思った生活をしているのが

ウクライナ人の家庭でした。

ウクライナというのはソビエトにある共和国のうちの一つで、数10年前、何だかの理由でソビエトに反発をしました。その為多くの人々がアメリカ・カナダに亡命をして、現在かなりな数のウクライナ人が住んでいます。

この家庭で、まず家族の人は僕に電話番号を教えてくれませんでした。こう書くと彼らは冷たい家族に思われそうですが、そんなことは全然なくて、番号は親戚にしか教えていないそうです。また、ほんの2~3分でも外出する時は、



第一ホストファミリーの家の前でディラン君と

警備員に電話をかけて、ドアには電子ロックをかけます。さらに、家のそこらじゅうに警報装置が仕掛けてあって、ある晩、皆が寝静まった夜中、僕はトイレに行こうとして、あるドアを開けると突然装置が鳴りだしてしまいました。少々大袈裟過ぎる気もしましたが、それ程彼らは世間を恐れているのです。これは日本人には、わからない気持ちです。でも、この家族の自己文化持続の姿勢はとてもすばらしいと思いました。小さい子供も難しいと嘆きながらウクライナ語を勉強していました。普通のクリスマスの他に、ウクライナのクリスマスも祝いました。国からは離れていても自分の民族の文化は守り続ける、そうしながらも、自分はカナダ人であるという偉大な誇りを持っている。これもカナダの特徴の一つだと思いました。(つづく)

